

令和2年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書

(令和元年度事業)

令和2年10月

向日市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	2
III	事業評価シート（令和元年度事業）	7
	（事務事業番号）	
1	学力の向上と個性を伸ばす教育の推進	8
2	豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進	13
3	健やかな身体の育成と体力の向上	16
4	家庭・地域社会との連携による特色ある 学校づくり	19
5	教職員の資質能力の向上	21
6	安心・安全な教育環境の充実	23
7	生涯学習環境の充実	28
8	家庭・地域社会の教育力の向上	37
9	子育てを支援する保育環境づくり	39
10	スポーツの振興	42
11	多様性を認め合う社会の実現	44
12	歴史・文化資源の整備と活用	45

I はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされております。

また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされております。

このため、本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様への説明責任を果たすため、事務事業の実績について取りまとめ、成果や課題について検証しました。

また、学識経験者である市教育委員会外部評価委員の方のご協力を得て、様々な意見・助言等をいただきましたので、その結果を報告します。

2 点検・評価の対象及び方法

教育基本法第17条第2項に基づく「本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」と位置づけている「ふるさと向日市創生計画」で定める重点施策や取組事業を踏まえ、主要な12施策46事業を外部評価対象事業とし、委員の方から施策ごとに様々な意見・助言等をいただきました。

(1) 点検・評価委員

氏名	役職等
前坂 あや子	元高知県教育委員会事務局就職アドバイザー
松宮 功	大阪国際大学短期大学部教授

(2) 点検・評価会議開催状況

第1回点検・評価会議（令和2年7月16日開催）

第2回点検・評価会議（令和2年7月31日開催）

第3回点検・評価会議（令和2年8月21日開催）

II 教育委員会の活動状況（令和元年度）

1 教育委員会構成員

役 職	氏 名	就 任 日	任 期 満 了 日
教育長	永野 憲男	平成27年7月1日	令和3年6月30日
教育長 職務代理者	白幡 節子	平成17年12月10日	令和3年12月9日
委 員	松本 克彦	平成20年10月1日	令和2年9月30日
委 員	流石 智子	平成27年10月1日	令和5年9月30日
委 員	中野 緑	平成30年10月1日	令和4年9月30日

（1）教育長の異動

なし

（2）委員の異動

令和元年9月30日で流石委員が任期満了となり、10月1日付けで再任された。

2 教育委員会の開催状況 15回

回	開催日	時間	付議案件等
平成31年 第5回	4月23日(水)	午前9時30分～ 10時10分	(報告事項) ・臨時代理について ・平成31年度小中学校の主な新規事業等について
第6回	5月14日(火)	午前9時00分～ 10時10分	(議案第6号) 向日市議会令和元年第2回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・学校訪問について ・平成30年度いじめ調査の概要について ・平成30年度不登校の状況について ・令和元年度留守家庭児童会入会児童数について ・年間入館者数等について(図書館・天文館・文化資料館・文化財調査事務所) ・中央公民館事業について
第7回	6月25日(火)	午後1時30分～ 2時50分	(報告事項) ・向日市議会令和元年第2回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・適応指導教室(ひまわり広場)の拡充について ・令和元年度物集女車塚古墳石室一般公開について(報告) ・令和元年度子どもふれあい講座について
第8回	8月7日(水)	午前10時30分～ 11時15分	(議案第7号) 向日市議会令和元年第1回臨時会の議決を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・令和元年度向日市立小中学校トイレ改修工事について ・令和元年度(平成30年度繰越)向日市立小中学校ブロック塀改修工事について ・令和元年度留守家庭児童会夏季入会児童数について ・第16回向日市小学生夏休み作品展について ・第17回向日市中学生美術展及び第13回向日市中学生書道展について ・第16回向日市中学生弁論大会について ・令和元年度子どもふれあい講座実施状況について
第9回	8月19日(月)	午前9時30分～ 10時40分	(議案第8号) 向日市議会令和元年第3回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について ・向日市民体育館条例の一部改正について ・令和元年度補正予算について ・平成30年度決算について (報告事項) ・令和元年度中学校総合体育大会結果について

回	開催日	時間	付議案件等
第10回	8月27日(水)	午前9時30分～ 10時40分	(議案第9号) 令和2年度に使用する小中学校教科用図書の採択について (議案第10号) 令和2年度に使用する学校教育法附則第9条に規定される教科用図書の採択について (報告事項) ・向日市議会令和元年第1回臨時議会総務文教常任委員会質疑について
第11回	9月24日(火)	午前10時30分～ 10時55分	(議案第11号) 向日市教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則について (議案第12号) 人事に関することについて (報告事項) ・令和元年度調査研究成果展について(報告)
第12回	10月1日(月)	午前10時30分～ 12時05分	(議案第13号) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について (報告事項) ・向日市議会令和元年第3回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について
第13回	11月18日(月)	午前10時30分～ 11時10分	(議案第14号) 向日市議会令和元年第4回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・中央公民館事業について ・いじめに係る報告について
第14回	12月24日(火)	午前10時00分～ 11時20分	(報告事項) ・向日市議会令和元年第4回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・令和2年度通学区域の弾力化制度実施結果について(報告) ・令和元年度乙訓ふるさとふれあい駅伝大会結果について(報告) ・第8回子ども読書本のしおりコンテストについて(報告) ・第18回小中学生読書感想文コンクールについて(報告) ・史跡長岡宮跡保存活用計画の策定について(報告)
令和2年第1回	1月30日(木)	午前10時00分～ 10時15分	(報告事項) ・令和2年度向日市の教育(指導の重点)の改訂について ・中央公民館事業について

回	開催日	時間	付議案件等
第2回	2月10日(月)	午前10時00分～ 10時15分	(議案第1号) 向日市議会令和2年第1回定例会の議決を経るべき議案に対する意見について (報告事項) ・令和2年度向日市の教育について ・令和元年度第2回いじめ調査の概要について
第3回	2月27日(木)	午前9時30分～ 11時30分	(議案第2号) 令和2年度向日市の教育について (議案第3号) 府費負担教職員人事の内申について (報告事項) ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置について ・中学校卒業生に係る事案について
第4回	3月23日(月)	午前11時00分～ 11時10分	(議案第4号) 人事に関する事案について
第5回	3月26日(木)	午前10時00分～ 11時50分	(議案第5号) 向日市小中学校個別計画(骨子案)について (議案第6号) 向日市立の小中学校及び中学校の教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則について (議案第7号) 向日市スポーツ推進委員の委嘱について (報告事項) ・向日市議会令和2年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置について

3 教育委員会委員の主な活動

(1) 教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・小中学校入学式
- ・小中学校訪問
- ・小中学校体育大会
- ・中学生弁論大会
- ・小学生夏休み作品展
- ・中学生美術展・書道展
- ・小学校陸上運動交歓記録会
- ・小中学校公開授業、研究発表会
- ・中学生英語スピーチ大会
- ・乙訓地方小学生駅伝大会
- ・成人式
- ・京都府立向陽高等学校入学式・卒業式
- ・京都西山高等学校入学式 ほか

(2) 研修・協議会等

- ・乙訓教育委員会連合会教育委員研修会
- ・乙訓教育委員会連合会定期総会
- ・京都府市町村教育委員会連合会定期総会・研修会
- ・京都府内市町（組合）教育委員会研修会
- ・近畿市町村教育委員会研修大会
- ・乙訓地区小中学校使用教科用図書採択協議会

Ⅲ 事業評価シート（令和元年度事業）

施策番号	1
施策名	学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

<p>施策の目指す姿</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはじめ、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む意欲・態度を統合した「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 学習指導の充実 ② 特別支援教育の充実 ③ キャリア教育の充実 ④ 現代的課題に対する関心を高め、理解を深める教育の充実 ⑤ 校種間連携の強化</p>

事業名	研究指定	施策の方向性	①
事業概要 実績	○京都府教育委員会指定「学力向上システム開発校」・向日市教育委員会指定 第6向陽小学校 「ユニバーサルデザインの視点に立った教育」 ～共有化を意識した説明的文章の授業づくり～ (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	11月7日 約90人参加
	○京都府教育委員会指定「未来の担い手育成プログラム研究校」・向日市教育委員会指定 寺戸中学校 「仲間とつながり、目標にむけて支え合いながら取り組める生徒集団の育成」 (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	11月15日 約60人参加
	○京都府教育委員会指定「リーディングスキルテストを活用した論理的思考力の育成推進校」・向日市教育委員会指定 西ノ岡中学校 「生徒の良さを引き出す・集団の良さを生かす学校づくり」 ～論理的思考力の基礎を培う授業と学級集団の向上を目指した学級経営の在り方～ (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	1月29日 約60人参加

	<p>○京都府乙訓教育局指定「OASIS 校」・向日市教育委員会指定</p> <p>第3向陽小学校 「わかる!」「できる!」「つながる!」必然性のある学びの創造 ～「学び手の視点にたった授業改善」・「基礎・基本の定着」・ 「家庭や地域との連携」～ (授業研究・学習環境の整備等) 公開授業 1月31日 約70人参加</p> <p>第4向陽小学校 「相手意識を持ったコミュニケーション能力の育成」 ～『できる感』を高める振り返りシートの活用～ (授業研究・学習環境の整備等) 公開授業 1月24日 約80人参加</p> <p>第5向陽小学校 「主体的・対話的に深く学ぶ児童の育成」 ～文学的な文章を読むことを通して～ (授業研究・学習環境の整備等) 公開授業 1月30日 約100人参加</p>
担当課	学校教育課

事業名	学力テストの実施	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○各種学力テストを実施し、児童生徒の学習の定着状況を把握するとともに結果分析から指導改善につなげた。</p> <p>(向日市) 標準化された学力テスト (CRT) 国語、算数・数学、理科、社会、英語 小学校4年生～中学校3年生</p> <p>(京都府) 学力診断テスト 小学校4年生、中学校1年生、2年生 (文科省) 全国学力・学習状況調査 小学校6年生、中学校3年生</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	特別支援教育の充実	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○向日市教育支援委員会において、小中学校に在籍又は就学予定の幼児、児童生徒について、障がい等に配慮した適切な就学について協議し、相談及び指導を行った。</p> <p>相談件数 114件 (就学前46件、小学校44件、中学校24件)</p> <p>○各校の状況に応じ、特別支援教育支援員を配置し、教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援を行った。</p> <p>全小中学校に配置 小学校19人、中学校6人</p> <p>○特別支援教育就学奨励費を支給し、特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図った。</p>		

	給付内訳（給付対象人数：小学校65人、中学校18人） 学用品等購入費（小学校65人、中学校18人） 給食費（小学校65人、中学校17人） 校外活動費（宿泊あり・宿泊なし）（小学校11人・63人、中学校0人・18人） 修学旅行費（小学校8人、中学校6人） 体育実技用具費・柔道（中学校2人） 新入学児童生徒学用品費等（小学校7人、中学校4人）
担当課	学校教育課

事業名	職場体験	施策の方向性	③
事業概要 実績	○望ましい職業観や勤労観等を身につけさせるため、市の「総合的な学習」補助金や府教育委員会補助事業「KYO 仕事・文化体験活動推進事業」等を活用し、介護や農作業等の体験活動や地域社会における職場体験を実施した。 小学校：農作物の栽培、保育所や幼稚園での幼児との交流、介護体験 等 中学校：市内の事業所等における2年生の職場体験 100事業所 勝山中学校 4日間（10月～11月） 西ノ岡中学校 3日間（11月） 寺戸中学校 3日間（11月）		
担当課	学校教育課		

事業名	現代的課題への関心	施策の方向性	④
事業概要 実績	○生命のがん教育推進プロジェクト事業（京都府健康福祉部） 第4向陽小学校 令和2年2月4日 6年生（104人） ・がんに関する知識を医師とがん経験者から直接学び、生活習慣の大切さについて学ぶとともに、健康と命の大切さについて考えることができた。		
担当課	学校教育課		

事業名	校種間連携の充実	施策の方向性	⑤
事業概要 実績	○各中学校校区（勝山中、西ノ岡中、寺戸中）において、学力向上を目的とした取組や児童生徒間の交流を実態に応じて実施した。 ・児童生徒 部活動体験 向陽小6年（117人）、5向小6年（96人） 見学 3向小6年（64人）、4向小6年（106人） 西ノ岡中陸上部が指導 2向小6年（20人）、6向小6年（20人） （小学生陸上交歓記録会に向けての練習） 中学校の授業体験 2向小6年（96人）、6向小6年（76人） 中学校の体育大会見学 向陽小6年（117人）、5向小6年（96人） ・教職員 合同研修会（学力分析、生徒指導など） 勝山ブロック（8月、約100人）		

	<p>西ノ岡ブロック（８月、約８０人） 寺戸ブロック（８月、約９０人） 合同授業研究会（公開授業の参観、事後研究など） 勝山ブロック （向陽小へ約１１０人、５向小へ約１００人、勝山中へ約１００人） 西ノ岡ブロック （２向小へ約５０人、６向小へ約６０人、西ノ岡中へ約２０人） 寺戸ブロック （３向小へ約６０人、４向小へ約７０人、寺戸中へ約１０人）</p> <p>○幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続が図られるように、教職員の交流や幼児と小学生の交流等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童の交流行事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校１年と年長との遊び（２向小、３向小、５向小） 小学校での発表や授業体験（４向小５年と年長、５向小１年と年長） 小学校の体育大会へ年長を招待（向陽小、６向小） 児童が保育園や幼稚園を訪問（３向小５年、２向小５年） ・教職員（全小学校） <ul style="list-style-type: none"> 保幼小交流会（授業参観、担当者による懇談） 合同研修会に参加（京都府乙訓教育局主催事業） 幼児教育、保育の一日体験（初任者教員対象）
担当課	学校教育課

施策の成果と課題	
<p>【成果】</p> <p>○各学校が、児童生徒の実態や状況に合わせて設定した研究テーマをもとに、効果的な指導方法や指導体制を工夫し、学力の向上と個性を伸ばす教育について研究を進めた。その成果を研究発表会や公開授業で発信するとともに、市内小中学校教員の相互参加を積極的に勧めることで、成果の波及につながった。</p> <p>○教育支援委員会では、学校や保育所（園）、幼稚園、療育等関係機関等と連携しながら、保護者との相談を重視し、幼児児童生徒一人一人に応じた就学先について審議し、適切な進学先を総合的に判断し、保護者に伝えることができた。各学校では、特別教育支援員による児童生徒への支援の充実が図られた。</p> <p>○各学校の特色を生かした体験活動や職場体験など発達段階に応じたキャリア教育を進めることで、勤労することの喜びや大変さなどに気付かせるとともに、将来の夢や希望につなげ、規範意識や社会性を身に付けさせることができた。</p> <p>○校種間の接続をスムーズにするため、各小学校において、児童が中学校で授業や部活動等を体験し、全中学校ブロックにおいては、小中学校教員が一堂に会する合同研修会を実施す</p>	

るなど、各校の学力実態や学力向上の取り組み等について交流した。また、新しい学習指導要領で示されている小学校高学年での外国語科、プログラミング教育について、中学校へとスムーズに接続できるよう、中学校教員も小学校の授業を参観し、研究協議等を通して理解を深めることができた。各小学校と保育所・幼稚園等においては、年間を通じて連携することにより、異校種間での教育や保育の特徴について理解を深めることができた。

【課題】

○教育支援委員会への相談件数が年々増加している中、委員会の開催や運営については非常に煩雑になっている。今後、検討が必要である。幼児児童生徒一人一人に応じた継続した教育的支援の充実を目指して、療育等関係機関と協力して進めてきた「移行支援ファイルの活用」については、就学前から小学校への活用はほぼ定着してきたが、小学校から中学校へ、さらには中学校から高等学校への活用を進める必要がある。

○様々な体験活動や中学校の職場体験では、体験をすることが目的にならないよう、各学校においては、体験活動前後の学習を計画的に進め、特別の教科道徳などを活用するなど、児童生徒に望ましい職業観や勤労観を育成することを意識して指導する必要がある。

○校種間連携では、学力向上に向け、特に、新しい学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」についての認識、小学校外国語科と中学校外国語科での指導と評価の共有や効果的な接続、また、不登校・不登校傾向の児童生徒への対応に向け、一人一人に応じた具体的な手立てを講じるための情報共有が課題である。

外部評価委員評価及び意見等

○研究指定の研究テーマの設定は、児童生徒の実態や状況に合わせて、様々な視点で授業研究や学習環境整備が行われており評価できる。これからも同じ内容を続けるのではなく、各学校の実情に応じた研究を行い、研究発表会や公開授業で発信するなど、教員相互で成果の波及につなげてもらいたい。

○リーディングスキルテストについて、児童生徒の読解力を把握するとともに、結果の分析から、その児童生徒に応じた指導を行った効果を確認し、次の指導改善につなげるためにも、同じ対象で年に2回実施することが必要と考える。

○教育上支援が必要な児童生徒が増加している中、より効果的な特別支援教育の充実を図るためには、若手教員の意見や発想も取り入れ、若手教員が持っている強みや良い部分を引き出せるように仕組み作りに努め、また、若手教員の人材育成ができる環境整備の構築を図ってほしい。

施策番号	2
施策名	豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進

<p>施策の目指す姿</p> <p>学習指導要領に規定された公共の精神、伝統や文化の尊重などを踏まえ、伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動を充実させるとともに、家庭、地域社会と一体となって、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力である豊かな人間性や社会性の育成を図る。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 道徳教育の充実 ② 人権教育の推進 ③ 生徒指導の充実 ④ 芸術・文化活動の充実</p>

事業名	「特別の教科 道徳」実践交流	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○授業改善に生かすため、研究授業の参観・研究協議等を通して、児童生徒の心に響き、道徳的価値の自覚を促す指導方法などについて研修を実施した。</p> <p>参加者数 14人（各小中学校から教務主任・道徳教育推進教師等）</p> <p>日時 令和2年2月10日（月）午後2時30分～同5時</p> <p>研究授業 西ノ岡中学校 第1学年</p> <p>教材名 「あなたはそこにいなさい」</p> <p>指導する内容項目 生命の尊さ</p> <p>内容 研究授業、事後研究、実践交流</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	人権教育	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○あらゆる人権問題に対し、豊かな人権感覚を持ち、幸せな社会生活を営めるよう、人権意識の高揚につながる取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の授業時数 <ul style="list-style-type: none"> 小学校17.8時間（小1～小6における各学年の年間授業時間の平均） 中学校19.7時間（中1～中3における各学年の年間授業時間の平均） ・参観、公開授業 <ul style="list-style-type: none"> 各小中学校で実施 各学年1回 ・教職員研修 <ul style="list-style-type: none"> 向日市教職員研修 1講座（同和問題） 各小中学校で実施 6講座（小学校4講座、中学校2講座） 		
担当課	学校教育課		

事業名	教育相談等	施策の方向性	③
事業概要 実績	<p>○適応指導教室の充実</p> <p>市内の不登校の児童生徒を対象に、主体性や人間関係の改善等を図る指導や相談を行うことにより、学校への復帰や社会的自立に向けた支援を行う適応指導教室「ひまわり広場」の開設日を増加し、対応を充実させた。</p> <p>164日開設（週3日間、7月から週5日間） 指導員10人（7月まで6人） 登録児童生徒16人（小学校9人、中学校7人）、平均で常時4人程度通室</p> <p>○教育相談事業の実施</p> <p>来所による相談、電話による相談、学校への巡回相談、家庭訪問による相談を実施した。中でも来所相談はニーズが高く、1人の臨床心理士が週2回、ほぼ満杯で児童生徒やその保護者等の相談に応じた。</p> <p>（各相談件数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来所教育相談件数（市役所）延べ321件 ・電話教育相談件数 延べ88件 ・学校への巡回教育相談（9校） 延べ237件 ・家庭訪問による教育相談 延べ7件 <p>○心の相談サポーター事業</p> <p>不登校の未然防止や早期解決を図るため、登校できるが教室には入りにくい不登校傾向の児童生徒を対象に、学習支援や教育相談等を行い、生徒の悩みや不安、ストレス等の解消を図り、心にゆとりを持てるような環境を提供した。</p> <p>臨床心理学を学ぶ大学院生 13人 配置校 小学校4校、中学校2校（各校週1日～4日） 対応件数 延べ1,006件</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	子ども未来づくり支援事業（体験活動）	施策の方向性	④
事業概要 実績	<p>○児童生徒の体験活動</p> <p>各学校が、それぞれの学校の実態や地域の特色を踏まえ、伝統や文化についての児童生徒の体験的な学習や、知的好奇心を育む学習などを実施した。</p> <p>（目的別体験活動件数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上（教科や領域など） 13件（小学校 8件、中学校5件） ・体験活動（農業、栽培など） 14件（小学校12件、中学校2件） ・伝統文化（友禅染、しめ縄など） 7件（小学校 5件、中学校2件） ・健康安全（防煙、ネットモラルなど） 4件（小学校 4件、中学校0件） <p>※シリーズとして複数回実施している場合も、1件としている</p>		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○「特別の教科 道徳」実践交流では、生徒の実態に応じた教材を使用した授業を参観し、研究協議を行うことで、教材研究や児童生徒の実態把握の大切さについて、認識を深めることができた。また、新しい学習指導要領に沿った「特別の教科 道徳」の指導と評価について共通理解を図った。

○全小中学校で、人権学習を実施し、人権尊重の意識の高揚を図るとともに、参観授業により保護者に授業公開や懇談会をすることで啓発もできた。また、若い教員が増える中、市教委や各小中学校で積極的に同和問題についての教職員研修を実施し、同和問題学習を進めるための教員の資質能力の向上を図った。

○適応指導教室においては、臨床心理士を養成する大学と交渉を重ねて人材を確保することにより、開設日を増加させ、複数の指導員体制を確保することで、通室する児童生徒に対して個に応じた丁寧な支援を実施することができた。

【課題】

○「特別の教科 道徳」の教科化の背景や指導・評価について今後も研修を深め、適切な評価を行うとともに、児童生徒や保護者への説明に努める必要がある。

○各学校においては、児童生徒一人一人のアセスメントにもとづいた支援を進めるため、外部との連携を図りながら組織的に対応していく必要がある。特に小学校における不登校児童が増加しているため、下学年での出席状況等詳細な情報を校内で共有するとともに進学先中学校にも丁寧に引き継ぐ必要がある。また、教育委員会においても、適応指導教室等の支援体制を整備の上、各学校と連携を密にし、さらに児童生徒を支援する必要がある。

○心の相談サポーター等として臨床心理を学ぶ大学院生を配置しているが、所属している大学の都合もあり、人材確保の課題がある。学校のニーズも高いため、関係の大学との早めの連携連絡をして人材確保に努める必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○「特別の教科 道徳」について、児童生徒自身が毎時間考えたこと等を記述することによって、まず自分の心の中を整理して表出することが重要である。それを、児童生徒自身が自分を見つめ直すことで自己評価となり、それをもう一度問いかけ指導し、記述させることで、児童生徒自身が自らの内面で起こった変化のプロセスを振り返ることができ、有効である。

○子ども未来づくり支援事業について、それぞれの学校の実態や特色を踏まえ、様々な体験活動を通じて、各学校独自の活動ができることは評価できる。引き続き充実させるよう努めてほしい。

○心の相談サポーター事業について、相談者と心の相談サポーターとの信頼関係が大切であることから、相談者がサポーターを選べるようにすれば成果につながると考える。今後も臨床心理学を学ぶ大学院生の人材確保に努めてほしい。

施策番号	3
施策名	健やかな身体の育成と体力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>明るく生きがいのある生活を営むために、生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育てるとともに、現代的な健康課題への理解を深め、健やかな身体の育成を図る。</p> <p>施策の方向性</p> <p>① 体力・運動能力の向上 ② 健やかな身体の育成 ③ 食育の推進</p>

事業名	新体力テストの実施							施策の方向性	①
事業概要 実績	○各校では新体力テストを5月に実施した。 (実施種目) 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ(計8種目) 【8種目のうち、全国平均を下回る学年の多い種目を継続観測】								
	令和元年度 新体力テスト 結果		握力 (Kg)			20mシャトルラン (回)			
	項目	年度	向日市	京都府	全国	向日市	京都府	全国	
	小6 男子	令和元年度	18.34	18.86	19.04	63.06	64.15	65.49	
		30年度	20.56	19.04		65.06	66.70		
	小6 女子	令和元年度	18.21	18.19	19.37	46.39	51.29	51.19	
		30年度	19.33	18.85		52.00	53.25		
	中3 男子	令和元年度	31.87	33.94	34.81	92.60	95.63	96.80	
		30年度	32.53	34.42		116.53	100.54		
	中3 女子	令和元年度	23.787	24.86	25.71	70.80	64.54	62.66	
30年度		23.73	25.60	64.33		66.25			
※全国平均値＝前年度平均値(未発表のため)									
担当課	学校教育課								

事業名	健康に関する授業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○小中学校で薬物乱用防止教室を実施した。</p> <p>向陽小4年生（6月）、2向小6年生（3月）<small>（新型コロナウイルス感染症に係る休業のため実施できず）</small></p> <p>3向小6年生（12月）、4向小6年生（6月）</p> <p>5向小6年生（7月）、6向小6年生（7月）</p> <p>勝山中2・3年生（7月）、西ノ岡中全学年（7月）</p> <p>寺戸中2・3年生（10月）</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	食育・学校給食運営	施策の方向性	③
事業概要 実績	<p>○小学校では、農作物栽培をし、給食等で活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物例 1・2年生（さつまいも、ミニトマト、オクラ） 3・4年生（なす、へちま、ゴーヤ） 5・6年生（かぼちゃ、米） 委員会活動等（大根） ・給食等の活用例 大根、さつまいも <p>○全小中学校において、給食を教材とした食育の推進を図った。</p> <p>○小学校給食実施児童数 2, 983人（令和元. 5. 1現在）</p> <p>米飯給食週4回実施。</p> <p>食器洗浄機、冷蔵庫、水槽、湯沸器、移動式ラック等、給食備品の更新により、給食室衛生管理の徹底を図った。</p> <p>給食室害虫駆除、栄養教諭等保菌検査、食材検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。</p> <p>○中学校給食実施生徒数 1, 465人（令和元. 5. 1現在）</p> <p>米飯給食週5回実施。</p> <p>○配送用コンテナ、フードスライサー、移動式置台等の給食備品の配備により、給食室の整備を図った。</p> <p>○栄養士等給食関係者従事者の保菌検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。</p> <p>○食物アレルギーを有する児童生徒へ医学的根拠に基づいた適切な対応ができた。</p> <p>食物アレルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校214人（有症率7. 2%） （そのうち、除去食対応については、93人） 中学校137人（有症率9. 3%） （そのうち、除去食対応については、42人） 		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○全小中学校で、薬物乱用防止教室に関わる授業を実施する予定であったが、第2向小学校が新型コロナウイルス感染症に係る学校休業措置のため実施できなかった。その他の学校では非行防止教室等も含め、発達段階に応じた薬物に対する正しい知識と対処について理解を深めることができた。

○全小中学校で、安心・安全で魅力ある給食を提供することができた。

○全小学校で、栽培活動と食育を関連させて学習指導を実施することができた。

○施設の改善や備品の更新などを行い、給食室の衛生環境の維持向上を図ることができた。

【課題】

○握力は、小・中学校ともに全国平均を下回っていることが多く、小学校では、低学年からの鉄棒や遊具を使用した遊びを積極的に取り入れるなどの工夫を続け、中学校では、体育授業のはじめに基礎体力作りを取り入れたたり、バスケットボールやバレーボールのパスで手首や指先の力を養わせたりするなど、授業の中で握力を高める動作を取り入れることで、体力向上に向けての取組を引き続き行う必要がある。

○各校とも年間計画作成時から、夏季休業前に薬物乱用防止教室を実施することを、学校全体組織としての取り組みとして意識し、薬物に対する正しい知識の習得と非行防止に向けた取組を実施する必要がある。

○特に、中学校において、給食を活用した食育を通じて望ましい生活習慣を身に付けるよう指導を行っていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○全小中学校で防災給食を取り入れ、災害時を想定した食事について児童生徒自身が考えることや、非常食が体験できることは評価できる。

○食物アレルギーを有する児童について、可能な限り同じ時に同じものを食べることができるようきめ細かい配慮と工夫がされていることは評価できる。

施策番号	4
施策名	家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり

<p>施策の目指す姿</p> <p>保護者や地域社会との連携を促進し、家庭・地域社会と一体となった教育活動の充実を図り、特色ある学校づくりを推進する。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 開かれた学校づくりの推進</p> <p>② 学校改善に生かす学校評価の充実</p>

事業名	ふるさと学習	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○小学校では生活科や社会科と関連させ、総合的な学習の時間に取り入れた。</p> <p>1年生・2年生：「向日市にふれる」町探検（校区の公園や図書館等の見学）を通じた学習</p> <p>3年生・4年生：「向日市を知る」特産物（なす、たけのこ等）や校区内の特色（お寺・踊り等）についての学習、簡単な歴史についての学習</p> <p>5年生・6年生：「向日市を学ぶ」インタビューやオリエンテーリング等の体験活動を通して、農作物や歴史・文化等についての学習</p> <p>※特徴的な取り組み</p> <p>3向小5年生：総合的な学習の時間「3向米をつくろう」において、地域の方の田んぼをお借りして栽培するとともに、校内でも黒米づくりに取り組み、児童が自ら精米して喫食した。4年生での「森本遺跡から学ぼう」の学習から、森本遺跡顕彰祭では収穫した黒米を献上するなど、地域の行事に参加し、地域の方とつながる学習となった。</p> <p>○中学校では、総合的な学習の時間の中で学習した。</p> <p>勝山中 1年生：「福祉、歴史、災害」の中から選択して調査・研究した内容をまとめ、生徒相互の意見交換を通して向日市の未来についての考えをまとめた。</p> <p>西ノ岡中 2年生：「向日市の特色」についての調査・研究を通して、「ふるさと紹介パンフレット」にまとめた。</p> <p>寺戸中 2年生：「向日市の歴史や現状」について調査・研究し、向日市活性化プロジェクト案を新聞に表現するなど、向日市の未来についての考えをまとめた。</p> <p>○向日市ふるさと検定の受検</p> <p>対象：中学生（勝山中：1年生、西ノ岡中：2年生、寺戸中：2年生）</p> <p>内容：ふるさと検定の受検を通して、ふるさと向日市への関心を一層高めるとともに、ふるさと学習における調査・研究を推進した。</p>		

	<p>○ふるさと学習成果展</p> <p>児童生徒が地域ならではの特色に関心を高め、ふるさとへの愛着を育むとともに、授業で取り組んだ学習成果（ポスター、パンフレット等）を校外に展示し、本市の特色ある教育活動を広く市民に知ってもらい、本市への関心を高める機会としている。</p> <p>日 時 令和元年12月21日～令和2年1月13日</p> <p>場 所 文化資料館 ラウンジ</p> <p>参加校 向陽小学校、第5向陽小学校、西ノ岡中学校</p>
担当課	学校教育課

事業名	学校評価	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○自己評価</p> <p>各学校は、評価計画に基づき教育活動に係る評価を実施することにより、各取組を改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年、学級、校内分掌担当での評価を実施（年2～3回） ・児童生徒、保護者、学校評議員からアンケート調査を実施（年3～4回） ・評価と調査を基に教育活動を捉え直し、改善策を明確化 ・業務改善の視点を取り入れ実施（6校／9校） <p>○自己評価の公表</p> <p>各学校は、各研究内容や授業改善の視点、家庭学習等、自己評価の結果を受けた教育活動の改善の方向性について学校だよりで周知した。</p>		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題	
【成果】	<p>○全小中学校で「ふるさと学習」が定着し、地域の特色に合わせて、市職員からの話、地域の方を講師に招いた体験活動、資料を活用した探求活動、向日市ふるさと検定受検等を通して、児童生徒は、ふるさと向日市について興味関心を高めることができた。また、ふるさと学習成果展の実施により、本市の特色ある教育活動を広く市民に知ってもらい、本市への関心を高める機会となった。</p>
【課題】	<p>○新たにふるさとの魅力を発見するため、地域の情報を積極的に提供し、さらに地域との連携を図る必要がある。</p> <p>○京都府教育委員会「教職員の働き方改革実行計画」の評価指標を学校評価と連動させ、自己評価の項目に追加するなど、業務改善の点検・評価を全校で実施する。</p>

外部評価委員評価及び意見等	
	<p>○ふるさと学習の取組と向日市ふるさと検定を関連させることで、児童生徒が向日市のことを知り、新しい発見等のきっかけにもつながっていると高く評価できる。向日市ふるさと検定の上級を複数回合格することは自信にもなり、より向日市への興味関心を高め、ふるさと学習にも活かすことができる。</p>

施策番号	5
施策名	教職員の資質能力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>京都府教育委員会「教師力向上のための指針」を踏まえ、教職員一人一人が、研修等により自己の資質能力の向上を図るとともに、培った実践力を教育活動に積極的に生かし、組織としての学校の教育力を高め、計画的・継続的な教育実践に取り組む。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 教職員研修の充実</p> <p>② 教職員評価の実施</p>

事業名	子ども未来づくり支援事業（教職員研修）	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○教育委員会主催の教職員研修を実施するとともに、各学校において、喫緊の教育課題や学校のニーズに沿った教職員研修及び先進校視察研修を実施した。</p> <p>①教育委員会主催教職員研修</p> <p>夏季休業中に開催 3講座実施（合計179人）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年8月21日（水）午後3時～午後5時 「人権教育」部落差別解消法の施行を踏まえた指導（51人） 「教育相談」教師のパワハラ防止とメンタルヘルス（67人） 「生徒指導」いじめと虐待問題についての心理学的理解 ～指導と支援に向けて～（61人） <p>②各学校の主な研修</p> <p>小学校24件、中学校4件（年間通じて複数回実施を含む延べ件数）</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業づくり（国語科、算数科、外国語活動・外国語科など） （授業改善、授業のユニバーサルデザイン、アクティブラーニング等） 人権教育（同和教育・LGBT）及び道徳教育 児童生徒への支援（児童生徒理解・特別支援教育 等） <p>③若手教員研修（おおむね採用後2～5年目の教員）</p> <p>退職教員による、指導力向上のための研修（4校6人）</p> <p>【主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観、授業、学級経営についてのアドバイス 教材づくり <p>④先進校視察研修</p> <p>各校のニーズに応じて実施（小学校18回35人、中学校7回15人）</p> <p>【主な研修校、視察テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筑波大学附属小学校 研究発表、研究授業 関西学院初等部 研究発表、授業研究、ユニバーサルデザイン授業 横浜国立大学附属横浜中学校 研究発表、授業研究 		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○教育委員会においては、現代的課題と参加者のニーズに合わせた課題に係る教職員研修を実施し、教職員の資質能力の向上を図るとともに、各学校においては、特別支援教育や教育相談等、各校が課題と考える事例にもとづいた具体的な研修を実施することで、教員の実践力を高めることができた。

○退職教員を派遣し、教材研究の仕方や授業づくり、学級経営等、若手教員のニーズと実態に合わせた研修を実施することにより、児童生徒への指導に生かすことができた。

○先進校視察では、同一校から複数の教員が参加し、経年で同じ学校へ視察に行くことで、校内で指導方法等を伝達・共有する機会が増え、実践に生かしやすくなっている。

【課題】

○目まぐるしく変化し複雑多様化する時代に生きる児童生徒に「生きる力」を身に付けさせるため、教員の果たす役割は大きく、特に、増加する若手教員の指導力をさらに向上させる必要がある。また、小学校での新しい学習指導要領のめざす授業の在り方、指導と評価の一体化、同和問題学習をはじめとする人権学習などの研修を通じて、教員の資質能力の向上に努める必要がある。

○各学校では、大量退職大量採用の教職員構成や、児童生徒の実態に応じた教員の実践的指導力を高めるとともに、人材育成を目的とした校内研修を今後も充実させる必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○若手教員研修の退職教員による指導は、単発で行うのではなく継続して行われており、また、同じ指導者であることから、若手教員の指導力の向上にもつながっていることが評価できる。

○同一校から複数の教員が参加し経年で同じ学校を視察することによって、自身の学校の指導方法や運用と照らし合わせることができ、どのように活かせるかなどのアイデアが生まれることが期待できる。また、複数人で視察することはひとりよがりにならず、協議・議論・共有することによって実践に生かしやすくなるため、大変評価できる。

施策番号	6
施策名	安心・安全な教育環境の充実

<p>施策の目指す姿</p> <p>児童生徒が安心して通え、楽しく過ごすことができる居場所としての学校づくりに取り組むとともに、あらゆる危機に対応する力をはぐくむ安全教育の充実を図る。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 学校における安心・安全の確保</p>

事業名	安心・安全教育	施策の方向性	①	
事業概要 実績	<p>○「向日市いじめ防止基本方針」に基づき、各小中学校においては「いじめ防止基本方針」を策定するとともに、校務分掌にいじめ防止委員会を位置付け、日常的にいじめの早期発見と早期対応に努めた。</p> <p>○年2回のいじめ調査（アンケートと個別に聞き取り）を実施（1回目：7月、2回目：12月）した。</p> <p>※各調査後、3か月後を目安に追跡調査を実施した。</p>			
	いじめ調査の認知・解消件数（延べ件数）			
	年度	平成30年度		令和元年度
	項目	認知	解消	認知 解消
	小学校	1,452	1,310	1,276 1,155
	中学校	182	162	168 121
	合計	1,634	1,472	1,444 1,276
	<p>○年2回の向日市いじめ防止対策推進委員会（臨床心理士や弁護士、小児科医等が委員）を開催し、いじめ調査結果を基に、いじめの防止等に向けた方策について協議した。</p> <p>○不登校児童生徒が通室する適応指導教室の開室日を拡大させた（7月から週3日から週5日へ）。</p> <p>○不登校の未然防止に向け、小中学校に心の相談サポーター（臨床心理を学ぶ大学院生）13名を配置し、教室に入室しにくい児童生徒の心のケアを行った。</p> <p>○市の臨床心理士が各学校を訪問して各学校の不登校の状況を聞き取り、対応等について指導助言を行った。</p> <p>○不登校数《年間30日以上欠席》（平成30年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 1.50%（1.38%） ・中学校 4.11%（4.33%） 			

	<p>○交通安全教室の実施</p> <p>小学校 「歩行練習」 1年：向陽小、3向小、4向小、5向小、6向小 「自転車教室」 1年：4向小 2年：向陽小、3向小、5向小、6向小 「自転車運転免許教室」 4年：向陽小、2向小、3向小、5向小、 5年：6向小</p> <p>中学校 「交通安全教室（自転車）」 1年：勝山中、西ノ岡中、寺戸中</p>
担当課	学校教育課

事業名	登下校時安全対策	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>①通学路安全推進会議の開催（年2回） 向日市通学路交通安全プログラムに基づき、通学の安全対策について協議を行った。 構成団体：京都府乙訓土木事務所・京都府向日町警察署 向日市（防災安全課・学校教育課・道路整備課）</p> <p>②交通指導員の配置 小学校の通学路における交差点や踏切等、登校時31箇所、下校時14箇所の危険箇所に交通指導員を配置し、通学路の安全確保を図った。 また、老朽化した交通安全啓発用反射電柱幕の交換や新たな設置を行い、通学路の交通安全について啓発を行った。</p> <p>③防犯ブザーの配布 小中学校の新1年生全員に防犯ブザーを配布した。 （小学生480個、中学生510個）</p> <p>④通学路緊急合同点検に係る対策案の取りまとめ 文科省から示された『登下校防犯プラン』に基づき、児童生徒の登下校時において、防犯の観点から危険な箇所を抽出し、平成31年1月に実施した関係機関と連携した緊急合同点検について、令和元年5月に関係機関との対策検討会を行い、8月には対策案を取りまとめ、各学校及び関係機関に送付した。 参加：京都府向日町警察署・向日市立各小学校・向日市（学校教育課・生涯学習課・防災安全課・公園交通課・道路整備課）</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	学校施設の整備	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○児童生徒が快適な教育環境のもとで学校生活を送れるよう、校舎内のトイレ改修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改修内容 床面乾式床、洋式大便器、自動洗浄機能付小便器、自動水洗式手洗い器、人感センサー式 LED 照明機器 ・令和元年度トイレ改修箇所 第4向陽小学校、第5向陽小学校、西ノ岡中学校、寺戸中学校（各1箇所） <p>○平成30年6月18日に発生した大阪府北部地震及び平成30年9月4日に発生した台風第21号により、次年度に繰越した緊急度が低い、一部破損被害を受けた小中学校施設の修繕及び工事を実施した。</p> <p>○児童増加による教室及びクラブ不足を解消するため、第4向陽小学校校舎及び第4留守家庭児童会の増築工事を着工した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4向陽小学校：普通教室4クラス、トイレ ・第4留守家庭児童会：3クラブ、プレイルーム、指導員室、トイレ 		
担当課	教育総務課		

施策の成果と課題	
<p>【成果（学校教育課）】</p> <p>○いじめ調査時のアンケート結果や日常の観察から個別に聞き取りを行い、一人一人の状況を定期的に把握し、相談や指導、支援につなげ、いじめの早期対応、防止につなげることができた。</p> <p>○通学路安全推進会議において、学校から要望のあった通学路の危険箇所の情報を各機関と共有し、安全対策について検討を行った。</p> <p>通行に際し注意が必要な箇所に交通指導員を配置し、児童が安心して通学できるよう対策を行った。</p> <p>「学童多し注意」「危険 歩行者に注意」の電柱幕を設置することにより児童生徒だけでなく、通行する車両に対しても交通安全に対する啓発を行った。</p> <p>さらに、新1年生に防犯ブザーを配布し、不審者から身を守るための防犯・安全意識の啓発を行うとともに、いざという時に正しく使用できるよう、学校だよりを通じ、定期的な電池交換と外出時の常時携行について周知を行った。</p> <p>また、平成30年度に行った関係機関との緊急合同点検の実施による通学路上の危険箇所の情報共有を元に対策の協議を行い、具体的な対策案を取りまとめ、環境整備や改善につなげることができた。</p> <p>【成果（教育総務課）】</p> <p>○児童生徒が快適な教育環境のもとで学校生活を送れるよう、校舎内のトイレ改修を実施した。</p>	

○大阪府北部地震や台風第21号の影響により、剥離・損傷の被害を受けた小中学校施設について、災害復旧工事を行い児童生徒の安全性を確保できた。

○第4向陽小学校の児童の増加による教室不足を解消し、教育環境の充実を図るため増築工事を着工した。

【課題（学校教育課）】

○いじめ防止等に向け、児童生徒に係る事象にきめ細かく対応できるよう、向日市いじめ防止対策推進委員会委員等の専門家からの助言をもとに、児童生徒や保護者の訴え等の事実を適切に記録として残しておくなど学校に対して指導するとともに、一部の教職員が情報を抱え込まず、組織的かつ速やかに対応できるよう、引き続き、学校に対していじめの早期発見・早期対応を意識させる必要がある。

○不登校の児童生徒が増加している中、各学校が一人一人の状況を正確に把握するとともに、組織的に情報を共有し、児童生徒の自立に向けた具体的な支援策を支援計画に表すなど明確にした上で、保護者や医療機関等、専門機関との連携を図り、指導・支援を一層進める必要がある。

○教育の機会の確保のため、学校への登校という形にこだわらず、本市適応指導教室の活用やフリースクール等との連携を図り、児童生徒の社会的自立に向けた支援の充実が必要である。また、不登校児童生徒や保護者とうまくつながることが難しいケースや適応指導教室等にも通うことが難しいケース、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの面談が進まないケースなどには、京都府脱引きこもりセンター早期支援特別班等を活用し、支援につなげる。

○道路や周辺の様相変化等により通学路の危険箇所は常に変化するため、通学路安全推進会議の構成団体や学校・地域と連携して、定期的に要望や意見を取り入れつつ、交通指導員の配置時間や配置場所について、最適な見直しを行う必要がある。

また『登下校防犯プラン』に基づき、防犯上危険な箇所にも留意し、警察を含む各関係機関と連携しながら、防犯対策を講じていく必要がある。

【課題（教育総務課）】

○小中学校トイレ改修年度計画に基づき、児童生徒が快適な教育環境のもとで学校生活を送れるよう改修箇所の工事を進める必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○校舎内のトイレ改修について、洋式大便器や自動水栓式手洗い器など計画的に改修を実施していることは、評価できる。引き続き改修を行い、児童生徒が快適な教育環境で学校生活を送れるよう改修工事を進めてほしい。

○大阪府北部地震や台風第21号の被害を受けた小中学校施設について、早急に災害復旧工事を行ったように、今後についても不測の災害に対応できるよう、学校施設の安全確保や被害の軽減のために点検や対策に努めて欲しい。

○いじめ調査時のアンケート結果や日常の観察から個別に聞き取りを行っていることは、児童生徒のSOSに気付くことができ、いじめの早期発見や未然防止につながり、個々の状況に応じた相談や指導、支援につながると考える。

○防犯ブザーの配布について、防犯ブザーを携帯することにより未然防止となっている。また、配布して終わるのではなく、定期的な点検や電池交換のお願い等を通じて、防犯意識の再確認させていることは評価できる。

施策番号	7
施策名	生涯学習環境の充実

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習機会の提供及び学習の成果を活かす場や機会の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 生涯学習の振興</p> <p>② 社会教育施設における学習機会の充実</p>

事業名	生涯学習情報紙の発行	施策の方向性	①
事業概要実績	<p>○市などが開催する生涯学習関連事業の情報を市民に提供するため、生涯学習情報紙を発行した。</p> <p>生涯学習情報紙：年2回(前期・後期)</p> <p>前期500部、後期500部発行(市内公共施設等に配布)</p> <p>子ども向け夏休み情報紙：年1回(夏休み前)、各小中学校に配布</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」への支援	施策の方向性	①
事業概要実績	<p>○生涯学習の推進に取り組むボランティアサークル「まなぼうや」の活動に対して、講座の受付や広報等で支援を行った。</p> <p>開催講座数：8講座 参加者：131人</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	中央公民館生涯学習講座	施策の方向性	②
事業概要実績	<p>全12講座、参加者384人</p> <p>○ふしぎ発見！理科教室 (3講座 参加者106人)</p> <p>小学4～6年生を対象に、理科好きの子どもを育成するために毎回実験を行い、理科の不思議について学んだ。</p> <p>○夏休み子ども体験講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本電産(株)本社・中央開発技術研究所見学会 (参加者33人) 同社の沿革展示・長岡京遺跡展示の説明や10階フロアから北及び西方面(京都市側、向日市側)の景色を観察。企業創業、現在開発中の製品や主力製品である様々なモーターの話聞いた。 <p>○子どもふれあい講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将棋が強くなる！」教室 (参加者29人) 		

	<p>攻撃力をアップさせるための簡単な戦法を理解するとともに、詰将棋を解くことにより、相手玉を詰めたり必至をかけたりにして終盤の力を向上させることを目的とした。開始と終了の礼儀や対局のマナーを身に付けるとともに対局を通して将棋の楽しさを学んだ。</p> <p>○教養講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアのためのスマートフォン講座(2講座 参加者70人) 中高年を対象にスマートフォンの機能を学び、実際に使い生活に役立つことを知り、その便利さを体験した。 ・万葉集の世界をあじわう(参加者23人) 新元号「令和」の引用元である万葉集の世界を味わい、言葉遣いの巧みさや面白さなど、万葉集の魅力に触れた。 ・ゲームで楽しく親子で学ぼう！おこづかいの使い方講座(参加者20人) 小学1～4年生とその親を対象に、おこづかいすごろくゲームを通して、お金の大切さや役割について楽しく学んだ。また、工作キットを使って貯金箱を作成した。 <p>○健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腸から考える健康長寿(参加者9人) 最新の研究データを基に、腸内環境が様々な症状に影響しているということや健康長寿を考える上で最も重要であるという話を聞いた。 <p>○国際理解講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力いっぱいフィリピン(参加者14人) フィリピンの美しい自然や風土、文化や歴史など魅力的な話を楽しく聞いた。 <p>○文化講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎への誘い～歌舞伎の女形と一緒に歌舞伎を楽しもう～(参加者80人) 歌舞伎の所作、仕草、言い回し等についての話を聞いた。「野崎村」ダイジェストのせりふの節回しを体験した。 <p>○市民文化展 (出展数105点、来場者774人) 市民の創作による作品を展示・発表。イオンモール京都桂川イオンホールにて開催した。</p>
担当課	中央公民館

事業名	地区公民館生涯学習講座	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>全7講座、参加者132人</p> <p>○寺戸公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よろしおすえ 京ことば(参加者10人) 平安時代から歴史や生活に根ざした京ことばに触れた。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく学ぶ干支剪画教室（参加者 20 人） 剪画の技法を学び、来年の干支である「子」の色紙を作成した。 ・寄せ植えを楽しもう（参加者 30 人） クリスマスから新春を飾る寄せ植えを作った。 <p>○物集女公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防体操（参加者 14 人） 音楽に合わせて体を動かし、健康寿命を延ばすことや頭を使うゲームで脳の働きの活性化を促した。 <p>○森本公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨガを体験しませんか（参加者 15 人） 初心者向けのプログラムで、ヨガは心と身体、肉体の強さと柔らかさの調和であることを体験した。 <p>○鶏冠井公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お正月の寄せ植え（参加者 25 人） 葉牡丹を中心に春まで楽しめる寄せ植えを作った。 <p>○上植野公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金箔手工芸（参加者 18 人） 新春に向けて干支の色紙を作成した。 <p>○学習発表会（展示・掲示発表、活動紹介等） 発表クラブ数 40 団体（展示発表 700 点、活動紹介等 13 団体） 公民館クラブ・サークルの 1 年間の学習成果発表。各公民館にて開催した。</p>
担当課	中央公民館

事業名	図書館読書推進事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○資料の収集と貸出 蔵書数 18万8千点 貸出 29万6千点、貸出者数 8万2千人</p> <p>○レファレンス・サービス 受付件数 61件</p> <p>○予約サービスによる資料提供、他館との相互貸借、障がい者サービス 予約処理件数 21,198件 相互協力 貸出 625件、借用 1,534件 障がい者サービス 自宅配本 42回 216点</p>		

	<p>○読書の普及推進と読書環境の向上を図るための各種読書推進活動</p> <p>おはなし会プラスコンサート（2回実施）参加者 93人</p> <p>おはなしひろば（7回実施）参加者 304人</p> <p>文学講座（中止）</p> <p>小中学生読書感想文コンクール 応募者 171人</p> <p>図書館リサイクル・デー 参加者 118人 (884冊を譲渡)</p> <p>大人の朗読会（3回実施）参加者 54人</p> <p>むこうビブリオバトル（2回実施）参加者 45人</p> <p>自習室の開設 利用者 41人</p> <p>開館35周年記念特別展 「昭和モダンと向日町」 参加者 1,405人</p> <p>○図書館ボランティアの育成及び支援</p> <p>ステップアップ講座 受講者 14人</p> <p>ボランティア養成講座 受講者 14人</p> <p>○他機関との協力</p> <p>地域で支える認知症～共生と予防～ 参加者 15人 (おはなし会)</p>
担当課	図書館

事業名	文化資料館運営事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○古代の都“長岡京”をテーマとした常設展示の運営、特別展・企画展等の展示、講演会・日曜談話会・歴史ウォークの開催、市民ボランティア活動の支援を通して向日市の各時代の歴史及び文化について広く発信した。</p> <p>・開館日数 296日</p> <p>・入館者数 15,337人</p> <p>・入館者数の内訳 市内 9,329人 市外 6,008人</p> <p>○図書館・文化資料館開館35周年記念特別展「昭和モダンと向日町」 期間中入館者 1,501人</p> <p>○企画展「戦国時代の物集女と乙訓・西岡」 期間中入館者 767人</p> <p>○テーマ展示 ※（ ）内は期間中入館者数 「宮都の顕彰 古代の都・長岡京の中心地を探して」（2,435人） 「夏休み親子歴史教室作品展」（1,744人） 「くらしのなかの戦争展」（2,143人） 「くらしの道具展」（1,304人） 「ひな人形展」（1,005人）</p>		

	<p>○文化活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別企画「ゴールデンウィークに資料館内を電車が走る！part 9」 来場者 622人（定員なし） ・日曜談話会 <ul style="list-style-type: none"> （1）「近代における古代宮都の探究と顕彰」 参加者25人（定員なし） （2）「向日町劇場について」 参加者 29人（定員なし） ・歴史ウォーク 「むこうまち」を歩こう！ <ul style="list-style-type: none"> （1）「桜の径コース」を歩こう！ 参加者 22人（定員なし） （2）「竹の径コース」を歩こう！ 参加者 19人（定員なし） （3）「風の径コース」を歩こう！ 参加者 20人（定員なし） ・夏休み親子歴史教室 「向日庵」の和紙文化を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> （1）児童及び保護者向け 参加者 26人（延べ数）（定員20組） （2）京都府教職員向け 参加者 17人 ・連続講座 「向日市史概要版『向日市の歴史』を読む」（全5回シリーズ） 参加者 353人（延べ人数） ・シリーズ 「乙訓の中世文書を読む」（全3回シリーズ） 参加者 48人（延べ人数） ※第3回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ・特別展記念講演会 「民藝建築としての向日庵」 参加者 40人（定員80人） ・企画展記念講演会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため全て中止 <ul style="list-style-type: none"> （1）「最後の物集女城主 物集女宗入の伝説と足跡」（定員80人） （2）「西岡・乙訓の城館と物集女城」（定員80人） （3）「信長・光秀の時代と物集女氏」（定員80人） ・古代衣裳関係事業 <ul style="list-style-type: none"> （1）古代衣裳公開研修 参加者 58人 （2）古代衣裳着用体験会 参加者 35人 （3）国際博物館会議京都大会関連「みゆぜコット2019 in 京都」参加 着用体験者 16人 従事ボランティア9人 （4）大極殿衣裳行列 行列参加者 24人 従事ボランティア12人 ・小さいピアノ再生連続ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> （1）ワークショップ（全5回） 参加者 71人（延べ人数） （2）ミニコンサート 参加者 96人 演奏者・関係者9人
担当課	文化資料館

事業名	天文館運営事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○プラネタリウム新番組の導入、講演会や講座の開催など、天文への興味・関心を高める事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日数 242日、投影日数180日、投影回数565回 ・プラネタリウム一般投影 観覧者数 4,672人(特別投影を含む) ・プラネタリウム団体投影 観覧者数 2,853人(87団体) ・観覧者の内訳 大人 3,143人、小中学生 1,758人、幼児 2,624人 計 7,525人 ・団体の内訳 市内 22団体 882人、市外 65団体 1,971人、 幼稚園 22団体 876人、保育所 26団体 821人、 こども園等 9団体 298人、小学校 13団体 625人、 その他 17団体 233人 <p>○定例天体観望会 参加者数 354人(10回開催) 10月は台風のため、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>○特別天体観望会 参加者数 24人(1回開催) スターウォッチング in 朝堂院(5月)曇天のため中止 夏休み親子観望会(7月)、部分日食観望会(12月)雨天中止 昼の金星観望会(3月)新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止</p> <p>○天文教室・講座 参加者数 478人(14回開催) 夏の天文教室(7月 3回、8月 2回) 秋の天文教室(11月 1回) 冬の天文教室(1月 2回、2月 2回) 天文実験講座(10月 1回) 天文学講座(9月、11月、12月 計3回)</p> <p>○特別企画事業 参加者数 368人(8回開催) 七夕ファミリーコンサート(8月 2回) キッズプラネタリウム(8月)、星空☆落語(10月) 熟睡プラ寝たリウム(11月)、クリスマスコンサート(12月) JAXA 宇宙科学研究所特別天文講演会(2月) かぐやくんとお誕生日の星座(2月)</p> <p>○出前講座 9月～12月 市内6小学校 506人</p> <p>○来館者総数 10,775人(ロビーのみ入館者 2,026人)</p>		
担当課	天文館		

施策の成果と課題

【成果（全施設）】

○臨時休館や施設の使用制限を設けるなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策を迅速に行うことで、感染症拡大防止及び利用者の安全が確保できた。

【成果（生涯学習課）】

○生涯学習情報紙の発行や生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」への支援など、市民の自主的・自発的な学習活動を支援することができた。

【成果（中央公民館）】

○各種講座を開催し、市民に学習の場を提供することができた。市民が参加しやすいよう、開催日の工夫やタイムリーなテーマ「万葉集の世界をあじわう」を選ぶことで参加者の増加につなげることができた。子ども対象の事業では、日本電産見学会は企業の協力を得て実施することができ好評であった。

また、文化講座では向日市出身の歌舞伎役者（片岡嶋之丞氏）を講師に迎え、日本の伝統芸能である歌舞伎に触れる機会として、とても魅力的な講座となった。

○市民文化展、公民館サークルの学習発表会では市民の創作による作品や学習内容などを発表する機会を提供するとともに、市民の文化活動の活性化を図ることができた。

（3月20日に開催予定の学習発表会舞台の部について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。）

○地区公民館では多種多様な講座を開催することにより、市民の自主的な学習支援や生涯学習の環境づくりに努めることができた。

【成果（図書館）】

○文化資料館との共同事業として、開館35周年記念特別展「昭和モダンと向日町」を実施し、市内や他府県からも多くの方が来館され、昭和の向日町に著名な文化人が活動した足跡を美術工芸品や資料を通して知っていただけた。

○新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、3月5日から24日までの臨時休館中もインターネットや電話での予約申し込み受付は継続した。また、館内消毒や開館にむけての準備を行い、25日から貸出、返却限定の制限付きで開館した。

【成果（文化資料館）】

○「くらしの道具展」では、市内・近隣市町から小学校団体見学を多数受け入れ、ボランティアの会会員による農具の使い方の実演や解説を行い、昔の生活について学習してもらう機会を提供した。

○「ゴールデンウィークに資料館内を電車が走る！part 9」では、ボランティアの会会員のほか、市内在住の高校生、大学生、社会人の若い世代もボランティアに加わり、子どもから大人まで楽しめる事業の開催ができた。

○古代衣裳関連事業では、例年開催の向日市まつり「大極殿衣裳行列」以外にも、夏休み期間中に、古代衣裳着用体験、水晶飾りの製作体験を実施した。また、国際博物館会議京都大会（ICOM Kyoto 2019）付随して企画された「みゆぜコット2019 in 京都」の会場内（京都市内）において、古代衣裳着用体験コーナーを設け、着用体験を通して長岡京期から現在に至るまでの向日市について広報活動を行った。市民ボランティアにより、対外的に古代の都・長岡京について広く発信することができた。

○小さいピアノ再生連続ワークショップでは、経年変化により、音が出ない古いピアノを再生させるため、集まったボランティア参加者とピアノ専門家の力によって、再生させ、記念ミニコンサート開催を市民主体で行った。

【成果（天文館）】

○投影や講座、教室等の開催を通じて、子どもから大人まで楽しめる生涯学習の場を提供することができた。

【課題（全施設）】

○緊急事態が発生した場合を想定した施設内感染防止対応策を実施し、利用者の感染等防止に努める必要がある。

【課題（生涯学習課）】

○生涯学習について、引き続き市民が自主的・自発的に学習活動に取り組めるよう、各課・関係機関が行っている講座の情報について、より見やすい誌面となるよう効果的にとりまとめる工夫が必要である。

【課題（中央公民館）】

○好評であった夏休み子ども体験講座のJR見学会について、令和元年度は実施できなかったが、今年度以降も継続できるよう調整を行い、多くの子どもが興味・関心を持って参加できる体験型の講座の開催に努める必要がある。

○シニアのためのスマートフォン講座は、特に60歳以上の方が興味を持たれていることから、情報格差を少なくするためにも、体験しながら理解ができる場の提供が必要である。

○専門家による文化講座は市民の興味・関心が高いことから、今後も卓越した講師の選定確保が必要である。

【課題（図書館）】

○多様なニーズを把握して、資料の購入と事業展開に反映し、情報を発信することが利用促進につながる。そのためには能力を備えた職員の養成が必要である。

【課題（文化資料館）】

○展示事業及び展示に関連する講演会、講座について、今後も内容の充実をはかり、また、多様なニーズを考慮し、市民への学習の提供場所となるように工夫が必要である。

○古代衣裳関係事業では、初めての試みとして市外での活動を行った。今後も外部に向けて発信できる機会を作り、そのための講習会などの開催が必要である。

○小さいピアノ再生連続ワークショップでよみがえったピアノを今後更に活用し、市民の活動の場を増やすきっかけ作りをしていきたい。

外部評価委員評価及び意見等

○人材や財政が限られているなか、様々な事業を実施し、文化の質を支え文化の拠点の役割を各施設が果たしていると評価できる。

○各事業について、興味を引き参加したくなるタイトルとなっている。今後もより関心を集める事業の創意工夫に努めてほしい。

○図書館・文化資料館開館 35 周年記念特別展「昭和モダンと向日町」について、工夫され良い企画であったため入館者が多く集まり、大変評価できる。

○地域とのつながりが希薄になっている中、地区公民館の講座が、地域コミュニティーを増やすきっかけになることから、地域とのつながりやふれあいの場として大変重要な役割を果たしている。

○各施設の事業内容について、工夫され興味を引く充実した内容となっている。質を維持しながら、新たな層を取り入れる必要がある。そのためには、HPだけでなくツイッターやインスタグラムなどのSNSを活用するなど、スマホ世代への効果的な情報の発信に努めてほしい。

○事業の中止や休館になった場合でも、市民のニーズに答える方法を模索し検討していく必要がある。

施策番号	8
施策名	家庭・地域社会の教育力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努めるとともに、学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進する。</p> <p>施策の方向性</p> <p>① 家庭の教育力の向上</p> <p>② 地域社会の教育力の向上</p>

事業名	家庭教育講座	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○家庭及び地域の教育力の向上（基本的な生活習慣の重要性）について、市民への理解を呼びかけ、地域での取組みの促進を図ることを目的に開催した。</p> <p>「笑顔の子育て講座 ～この話を聞くとわが子のやる気が変わります！～」 参加者：61人</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	P T Aとの連携・支援	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○向日市P T A連絡協議会の活動に対する支援・助言</p> <p>○社会教育関係団体への補助金交付 交付団体：市立小中学校 P T A</p> <p>○向日市P T A連絡協議会との共催による人権研修会の実施</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	地域学校協働活動推進事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○子どもたちの豊かな成長を支えるため、学校や地域の方々と連携・協働し、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進した。</p> <p>実施校：向陽小（H26～）、2向小（H24～）、3向小（H21～） 4向小（H29～）、5向小（H27～）、6向小（H28～） 勝山中（H27～）、西ノ岡中（H25～）、寺戸中（R1～）</p> <p>本部委員：50人 内 容：学習支援、環境整備、読書活動支援、部活動支援など</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	放課後児童サポート事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○子どもの安心・安全な居場所づくりを目的に、5時間目終了後から高学年の授業終了までの間、低学年を対象に自由遊び等を行った他、2向小では全学年を対象に放課後学習を実施した。</p> <p>実施場所：市内全小学校 実施回数：114回（年間延べ15,721人） 内 容：グラウンド・体育館での自由遊び、教室での学習支援など</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	ジュニア・リーダー養成講座	施策の方向性	②
事業概要 実績	○次世代のリーダーとして必要な知識、技術、コミュニケーション能力の習得を目的に、野外活動・講話・実習などの体験学習や集団学習を行った。 参加者：22人（小学校5、6年生：21人 中学生：1人） 開講数：6回		
担当課	生涯学習課		

事業名	青少年健全育成団体との連携・支援	施策の方向性	②
事業概要 実績	○青少年健全育成団体との連携 ・安全見守りパトロール、あいさつ運動の実施 ・市民ふれあいコンサートの実施【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】 ・環境浄化活動の実施（図書類取扱店及び玩具・刃物類取扱店への立入調査） ○青少年健全育成団体への補助金交付 交付団体数：4団体		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題

【成果】

○家庭での子育てに関する講座を開催することで、家庭教育の担い手である保護者等に対して学習機会を提供することができた。

○PTA・青少年健全育成関係団体への活動に対する支援を行った。
また、各団体間の交流を深めることができた。

【課題】

○家庭の教育力の向上を図るため、子どもの家庭教育に関する学習機会の提供や、基本的な生活習慣の重要性や現代的課題などの理解促進に向けた取り組みを継続して推進することが必要である。

○地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進するため、地域学校協働活動推進事業における人材確保に努めるとともに、PTAや青少年健全育成関係団体の活動を継続して支援することが必要である。

外部評価委員評価及び意見等

○家庭教育講座について、興味を引くわかりやすいタイトルで、2年連続同じ講座、講師としたことで、昨年より参加人数が増えたことは評価できる。引き続き「楽しい子育て」「面白い子育て」など、前向きで参加したくなるような講座を継続してほしい。

○放課後児童サポート事業について、多様な遊びや体験、活動ができる場を提供できていることは評価できる。引き続き学校と地域とが連携し見守りながら放課後児童の居場所づくりの充実を図ってほしい。

施策番号	9
施策名	子育てを支援する保育環境づくり

<p>施策の目指す姿</p> <p>子育て支援のための施設の計画的な整備を図るとともに、時間延長等多様な保育サービスの充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）</p> <p>② 幼児教育の振興</p>

事業名	放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○放課後などに保護者等が仕事などで不在の小学生に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。</p> <p>①各留守家庭児童会入会児童数 592人(令和元年5月1日現在)</p> <p>第1留守家庭児童会 123人(3クラブ)</p> <p>第2留守家庭児童会 115人(3クラブ)</p> <p>第3留守家庭児童会 68人(2クラブ)</p> <p>第4留守家庭児童会 117人(3クラブ)</p> <p>第5留守家庭児童会 122人(3クラブ)</p> <p>第6留守家庭児童会 47人(2クラブ)</p> <p>②指導員研修会の実施 計7回(参加者延べ205人)</p> <p>「配慮を要する児童の育成」について</p> <p>「救急講習」について</p> <p>「児童虐待防止」について</p> <p>「不審者対応」について</p> <p>「障がいのある児童の育成」について</p> <p>「救命救急講習」</p> <p>③施設環境整備</p> <p>必要に応じて各児童会の施設修繕を行った。</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	幼児教育の振興	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○向日市私立幼稚園就園奨励費補助金・向日市私立幼稚園児教材費補助金</p> <p>子どもの心身の健やかな成長を促す上で、極めて重要である幼児教育を行う幼稚園への就園を奨励し、園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付</p> <p>・就園奨励費：所得制限あり</p> <p>交付：園児706人 総額 47,959,300円</p> <p>令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化により令和元年9月30日までの補助</p> <p>・教材費補助金：園児1人当たり42,000円</p>		

<p>担当課</p>	<p>交付：園児941人 総額 39,522,000円</p> <p>○子育てのための施設等利用給付交付金 生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性や幼児教育の負担軽減を図る少子化対策の観点から、令和元年10月から施設等利用給付交付金を交付 交付：園児971人 総額 126,779,610円（月額上限有）</p> <p>○実費徴収に係る補足給付補助事業 令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化により、低所得者の保護者の副食費を補助し、幼稚園児の保護者の負担軽減を図る。 交付：園児37人 総額 511,465円</p> <p>○向日市私立幼稚園設備費補助金 市内私立幼稚園の教育環境の整備に対する補助金交付 交付：市内3園 1園当たり210,000円</p> <p>○乙訓私立幼稚園協会教育研究補助金 乙訓私立幼稚園協会が実施した職員研修等に対して補助金を交付 交付：195,000円</p> <p>○向日市私立幼稚園特別支援教育振興補助金 市内3私立幼稚園特別支援教育に係る人件費に対し補助金を交付 交付：市内3園 総額 1,960,000円</p> <p>教育総務課</p>
------------	--

<p>施策の成果と課題</p>	
<p>【成果（生涯学習課）】 ○留守家庭児童会では、入会要件を満たす児童を全て受け入れたことで、保護者のニーズに応えることができた。</p> <p>【成果（教育総務課）】 ○令和元年10月からの幼児教育・保育の無償化により、私立幼稚園に在園する園児の保護者に対し、子育てを行う家庭の経済的負担を軽減することができた。 私立幼稚園の設備、備品の整備を促進するとともに教職員の研修会等を支援することにより、幼児教育の振興を図ることができた。 障がいのある幼児を受け入れる私立幼稚園を支援することにより、障がいのある幼児の就園促進及び教育振興を図ることができた。</p>	

【課題（生涯学習課）】

○児童が安心・安全に過ごすことができ、保護者も安心して就労することができるよう、各留守家庭児童会において引き続き指導員の確保及び環境整備に努める必要がある。

【課題（教育総務課）】

○幼児教育の重要性を踏まえ、私立幼稚園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、園児の保護者や私立幼稚園に対して補助金の支給を行い、幼児教育の振興を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○留守家庭児童会では、入会要件を満たす全ての児童を受け入れ、待機児童がないことは大変評価できる。

施策番号	10
施策名	スポーツの振興

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① スポーツ活動の推進</p>

事業名	各種スポーツイベントの開催	施策の方向性	①
事業概要 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民総合体育大会 参加者：695人 ・スポーツ交流フェア 参加者：856人 ・スポーツランド 参加者：120人 		
担当課	生涯学習課		

事業名	市民体育館の管理運営	施策の方向性	①
事業概要 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成28年度から5年間の指定管理者に（公財）向日市スポーツ文化協会を指定している。 体育室稼働率：90.5% トレーニング室利用者：23,739人 ・卓球台及び段違い平行棒バーを新調した 		
担当課	生涯学習課		

事業名	スポーツ指導者育成	施策の方向性	①
事業概要 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の育成 研修会の開催（毎月1回）、スポーツイベントへの派遣など 		
担当課	生涯学習課		

事業名	学校等体育施設開放事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>社会体育の振興を図るため、学校等体育施設の開放を行った。</p> <p>使用回数 ○小学校 体育館：2,048回 グラウンド：1,740回</p> <p>○中学校 体育館：800回</p> <p>○向日町競輪場スポーツ施設：997回</p>		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題

【成果】

○学校等体育施設の有効活用やスポーツ文化協会と共催したスポーツ交流フェアの開催などにより、スポーツを行う機会を提供することができた。

○老朽化した市民体育館の卓球台や段違い平行棒バーを新調したことにより、安全面の確保ができ、また競技スポーツの向上にも寄与した。

【課題】

○自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、引き続き（公財）向日市スポーツ文化協会や関係機関・団体と連携して事業に取り組む必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○体操競技において、都道府県レベルの施設環境が市民体育館で整っていることは評価できる。

○指定管理者制度において、教育委員会と（公財）向日市スポーツ文化協会と連携が取れ、市民や各種団体から好評を得ており、地域に密着した事業ができている点が大変評価できる。

施策番号	11
施策名	多様性を認め合う社会の実現

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が生涯のあらゆる場や機会を通じて、人権尊重の理念や、同和問題など様々な人権問題についての正しい理解と認識を深めるとともに、実践につながる自発的な学習活動の促進と、その啓発に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 人権教育の推進</p>

事業名	人権研修会	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>市民がそれぞれの状況に応じて、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することができるよう、人権について学ぶ機会として開催する。</p> <p>第1回「今日における部落問題への取組の意義と課題について」 参加者：24人</p> <p>第2回「LGBTを知る」参加者：58人</p>		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題	
<p>【成果】</p> <p>○異なるテーマを取り上げたことにより、さまざまな人権問題について正しい理解と認識を深めることができた。特に、LGBTを取り上げた研修会のアンケートでは、言葉は知っていたが、講演等話を聞いたりする場がなかったとの声が多く寄せられ、参加者に新しい気づきを得られるきっかけを作ることができた。</p> <p>○第2回目は向日市PTA連絡協議会と共催した結果、PTAから多くの参加があり、人権について学ぶ機会を提供することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○より多くの市民に参加してもらえよう、市民に身近なテーマの選択や周知方法等を工夫する必要がある。</p>	

外部評価委員評価及び意見等	
<p>○PTAと共催して研修会を実施したことで参加人数も増え、人権についてより多くの人が学ぶ機会が得られたことが評価できる。他の社会教育団体とも共催することで、講師や参加者の確保、事業の継続にもつながる。</p> <p>○より多く参加してもらえよう、タイトルの工夫や他団体へ呼びかけるなど周知の方法について工夫が必要である。</p>	

施策番号	12
施策名	歴史・文化資源の整備と活用

施策の目指す姿 文化財の保護及び積極的な整備や活用に努め、歴史・文化資源を未来に継承する。
施策の方向性 ① 文化財の保護と活用

事業名	文化財の指定等	施策の方向性	①
事業概要 実績	○京都府暫定登録文化財（平成29年度に新設された制度） 社額「正一位向日大明神」 1点 令和2年3月27日 登録 令和元年度末の市内の国・府・市の指定文化財等は97件となった。 （前年度比1件の増）		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	有形文化財の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	○建造物の保護と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 国登録有形文化財旧上田家住宅を保存修理し活用を図る。 ・内容 平成28年度に史跡長岡宮跡買上事業に係り寄附を受けた農家住宅の活用について実施設計に基づき整備工事の準備を行なった。 ○建造物の防火・防犯 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 国及び京都府指定等文化財（建造物）の適切な管理を図るため、文化財火災予防運動の期間中に、広報活動、消防訓練、消防設備の点検立入検査等を実施する。 ・訓練 令和2年1月27日（月） 雨天のため中止 ・検査 令和2年1月27日（月）、30日（木）立入検査 ○建造物の防災設備維持管理 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 国及び京都府指定等文化財（建造物）の修理や防災設備維持管理、災害普及等に要する経費を補助する。 ・補助等 4事業者 4事業 393,000円 ○建造物を活用した文化活動補助 <ul style="list-style-type: none"> ・目的 国登録有形文化財を活用した文化活動等に要する経費を補助する。 ・補助等 1件 40,000円 		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	無形文化財の保護と後継者育成事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○無形民俗文化財の保護と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 無形民俗文化財保存団体の文化活動と後継者育成に要する経費を補助する。 ・補助等 2件 70,000円 		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	史跡の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○史跡乙訓古墳群の買上げ事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 史跡乙訓古墳群を適切に保護するため用地を買い上げる。 ・買上地 向日市寺戸町芝山ほか 7筆 32,527.89㎡ 〔内訳〕五塚原古墳 3筆 28,147.75㎡ 寺戸大塚古墳 4筆 4,380.14㎡ ・買上額 201,733,794円 <p>○史跡長岡宮跡保存活用計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 文化財保護法に基づき、史跡長岡宮跡の確実な継承に向け、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定する。 ・委員 9名 ・委員会 3回、その他に個別現地指導 ・報告書 300冊 <p>○史跡等の保存団体への補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 市内に所在する史跡等の保存団体が実施する文化活動に要する経費を補助する。 ・補助等 3団体 78,000円 <p>○史跡指定地等文化財用地の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 史跡指定地等の文化財用地の清掃、除草、樹木の剪定を実施し、史跡環境の保全に努める。 ・内容 8か所、延62回 		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	埋蔵文化財の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○開発等に係る埋蔵文化財の審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 市内の周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施される開発等を審査し、必要な場合は保存措置を行う。 ・件数 開発、まちづくり条例に係る文化財審査 51件 建築確認申請に係る文化財審査 267件 埋蔵文化財発掘届出書受理 294件 埋蔵文化財発掘通知書受理 21件 		

	<p>○埋蔵文化財発掘調査等事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目 的 長岡京跡ほか本市の特色ある埋蔵文化財を保護するため各種の調査を実施する。 ・ 発掘調査 19件 1,823.50㎡ ・ 立会調査 248件 (埋蔵文化財詳細分布調査) ・ 出土遺物 46箱 <p>○埋蔵文化財出土遺物保存処理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目 的 埋蔵文化財発掘調査出土品で、歪みや変形、腐食等により現状の保管ができない遺物を科学的処理し恒久保存する。 ・ 種 別 等 長岡京跡ほか出土銭貨 50点 ・ 処理方法 鉄製品 アルカリ性水溶液含浸 銅製及び青銅製 ベンゾトリアゾール溶液含浸 <p>○埋蔵文化財出土遺物整理分類事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目 的 飽和状態にある埋蔵文化財出土遺物を適切に管理するため、国や府の基準に基づき分類整理する。 ・ 内 容 埋蔵文化財発掘調査等の出土遺物を活用度に応じA～Dの四種類に分類し、データベースを作成。 ・ 成 果 令和元年度コンテナ 44箱 381点 (点数は活用できるA、B分類のみ) 累計コンテナ 11,922箱 累計遺物個体数 72,526点 (点数は活用できるA、B分類のみ)
担当課	文化財調査事務所

事業名	文化財の広報普及事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○史跡長岡宮跡朝堂院公園公開・説明事業 (平成22年6月22日 開所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目 的 史跡整備を実施した長岡宮跡朝堂院西第四堂地区に設置した案内所に案内員を配置し、史跡来訪者に対し史跡及び市内の歴史・文化遺産の案内解説を行ない、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。 ・ 開園日数 349日 ・ 来訪者数 7,506人 ・ 1日平均 21.50人 ・ 累計来訪者数 72,840人 ・ そ の 他 市内小学校の学年、クラス単位の地域学習や教職員研修の場として朝堂院公園を活用した。 		

○復元体感アプリ「AR長岡宮」の活用（平成26年3月末に配信）

- ・目的 史跡長岡宮跡の理解を促進するためAR、VR技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。

・利用者数	997人	ダウンロード	637人
		貸出タブレット	360人
・累計利用者	16,514人	ダウンロード	11,580人
		貸出タブレット	4,934人

○復元体感アプリ「墳タビ！物集女車塚古墳」の活用（平成29年3月末に配信）

- ・目的 史跡乙訓古墳群（物集女車塚古墳）の理解を促進するためAR、VR技術を用いて作成した無料アプリケーションを通じ、史跡の一層の活用と地域振興・観光振興に寄与する。

・利用者数（ダウンロード）数	393人
・累計利用者（ダウンロード）数	4,572人

○模型の展示

平成28年度に実施した「長岡宮大極殿等一部復元プラン策定事業」で作成した史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂復元模型を広報普及目的で、本年度も引き続き市役所本館エントランスに展示した。

○古代衣装の貸出（長岡京期の衣装 男女各4着）

- ・場所 朝堂院公園案内所
- ・貸出数 36人

○史跡乙訓古墳群物集女車塚古墳石室一般公開

- ・目的 良好な形で現存し、保全整備工事が終了した物集女車塚古墳の横穴式石室を広く公開し、史跡乙訓古墳群への理解を得る。
- ・期間 令和元年5月22日（水）～5月31日（金）
- ・見学者 428人
- ・その他 臨時公開期間 申込日（随時）
見学者 403人（市内小学校及び大学等）
- ・備考 公益財団法人向日市埋蔵文化財センターでは、石室公開に併せ、小学校でふるさと学習を実施した。

○市民考古学講座開催事業

- ・目的 向日市の特色ある歴史・文化遺産を題材とし講座を開催する。
- ・主題 戦国の争乱と西岡・物集女城
- ・開催数 講座5回と講演会1回、見学会1回
- ・参加者 講座 計322人
講演会 110人
見学会 37人

○埋蔵文化財調査成果展の開催

- ・目的 前年度に向日市内で実施した主な発掘調査成果についてテーマを設け展示し広く市民に広報する。
- ・開催名 彩発見！古墳・王宮・城館
- ・期間 令和元年9月7日（土）～10月14日（月・祝）
- ・来館者 2,332人
- ・講演会 開催日 令和元年9月21日（土）
演題 前方後円墳の出現
参加者 110人
備考 同時開催 報告会「五塚原古墳の調査成果」

○スタンプラリー開催

- ・目的 平成25年2月に文化庁主唱事業「歩き・み・ふれる歴史の道（第18回中央大会）『大発見 向日市』～向日市の歴史をたどるスタンプラリー～」を本市で実施した。これを契機に毎年同時期に市内の歴史文化遺産をめぐる史跡めぐりを実施し文化財保護への理解を深める。
- ・名称 史跡めぐり 大発見向日市
- ・内容 市内7か所の史跡等をめぐるウォーキングイベント
- ・開催日 令和2年2月22日（土）
- ・参加者 120人

○スライドでみるおとくのにの発掘

- ・目的 令和元年度に乙訓地域で実施した主な埋蔵文化財発掘調査成果をスライド等により用い広く市民に報告する。
- ・主催 乙訓文化財事務連絡協議会
（2市1町教育委員会、向日市・長岡京市埋蔵文化財センター）
- ・開催日 令和2年3月8日（日）
- ・場所 大山崎町ふるさとセンター
- ・参加者 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

○埋蔵文化財等保管資料の活用

- ・出土遺物等資料の貸出 5機関に 43点
- ・写真資料提供、掲載等承諾 9機関に 48点
- ・保管資料の調査・見学対応 7機関に182点

○史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂復元・体感具「ふわふわ！朝堂 in」の活用

- ・目的 史跡長岡宮跡の適切な保全と、広報普及等の活用を促進するため、空気で膨らませることができる塩化ビニル製の朝堂院西第四堂を作成し活用し、史跡長岡宮跡の広報普及を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・活用日 令和元年10月10、11日（木、金） 令和2年1月9日（木）、2月22日（土） ・利用者 273人 <p>○文化遺産シリーズ翻訳及び版下作成業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的 向日市の文化遺産を紹介する既存のカラーパンフレットを同じレイアウトで外国語に翻訳し、広く配布することにより歴史・語学学習をはじめ地域振興・観光振興に寄与する。 ・翻訳物 向日市の文化遺産シリーズ① むこうし歴史探検マップ 向日市の文化遺産シリーズ③ 長岡宮跡 向日市の文化遺産シリーズ⑦ 五塚原古墳 ・内容 日本語を英訳化し、パンフレットデザイン作成 ・印刷 翻訳後に別途に各300部印刷 ・備考 14種類ある向日市の文化遺産シリーズのパンフレットを今後、順次5か国語（日本語、英語、中国語＜繁体・簡体＞、韓国語）に翻訳し発行予定
担当課	文化財調査事務所

事業名	歴史・文化拠点の整備	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○文化資源（ピアノ）の整備</p> <p>資料館に寄贈された西向日住宅地で使用されていた家庭用のピアノ（昭和10年(1935)頃製）を演奏可能な状態に再生させるため、ピアノ本体の修理から再生記念ミニコンサート開催までの行程に対して参加者を集め、ピアノ専門家の指導のもと、ワークショップ形式でピアノを生まれ変わらせる取り組みを行った。</p> <p>○市民活動の推進</p> <p>（1）文化資料館ボランティアの会の育成</p> <p>常設展示案内を中心に来館者に応対するガイド班と、収蔵資料の整理、民具の展示などに取り組む資料整理・展示班に分かれて活動するボランティアの会の育成・支援を行った。（登録者 27人）</p> <p>（2）むこうまち歴史サークルの育成</p> <p>文化資料館を拠点とする自主学习サークルとして、テーマごとに計4班を編成し、各班毎月2回の学習活動を支援した。また、サークル全体での合同研修会を実施し、講演会を開催した。（登録者 43人）</p>		
担当課	文化資料館		

施策の成果と課題
<p>【成果（文化財調査事務所）】</p> <p>地域の特色ある歴史・文化遺産を題材として、展示や講座・講演会、史跡めぐりや見学会、英語版のパンフレットの発行など、多彩な事業を実施することにより文化財の活用促進に努めることができた。</p>

特に本年度は、史跡を適切に保護し未来へと継承するため、ソフト面では史跡長岡宮跡保存活用計画を策定し、ハード面では史跡乙訓古墳群の五塚原古墳、寺戸大塚古墳の用地を約3万2,500平方メートル取得した。

その結果、市民の文化財保護への理解を深め、地域愛を育むとともに、文化財を核とした地域振興、観光振興などのまちづくりにも寄与することができた。

【成果（文化資料館）】

○歴史のある小さいピアノを修復し、ミニコンサートを開催した。向日市に残る文化資源を市民の手で修復し、整備保存及び継承、活用できたことの意義はたいへん大きい。

○文化資料館ボランティアの会は、常設展示の個別案内や、団体見学対応、夏休み期間中の事業運営補助、収蔵資料の整理・清掃、民具の展示など、幅広く活動した。

また、古代衣裳製作及び乙訓地域地形模型制作のボランティア活動では、市民有志が自主的な運営により創造的活動を、年間を通じて活発に行った。

【課題（文化財調査事務所）】

○史跡乙訓古墳群や史跡長岡宮跡、向日神社など本市の特色ある歴史・文化遺産は、市内外への認知度が必ずしも十分ではない。このため、歴史・文化遺産を地域の歩みを物語る「宝」として、「後世に残したい」という思いを市民の間で共有されるよう、広くその価値を高めるため、より一層の多彩できめ細やかな保護と活用、情報の発信を継続して実施していく必要がある。（継続課題）

○文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会層かがりて継承に取り組んでいくため、文化財の計画的な保存と活用の促進を図っていく必要がある。そのために、京都府が策定した「京都府文化財保存活用大綱」を勘案し、地域住民の意見を反映した「向日市文化財保存活用地域計画」や「史跡乙訓古墳群保存活用計画」を策定する必要がある。

○取得した史跡指定地を適切に維持管理すると共に、早期に保全整備し活用を促進する必要がある。

【課題（文化資料館）】

○再生した小さいピアノを今後も活用し、市民が活動できる場を提供するとともに、貴重な文化資源の保護に努め、後世につないでいく。またピアノが現役で使われていた昭和初期の頃の向日町の歴史について、更に歴史資料や記録の収集、保存に努め、向日市の時代ごとに特色ある歴史、文化を次世代に残すことが必要である。

○古代衣裳関連の取り組みとしては、ボランティアが長岡京期の衣裳について理解を深め、復元製作技能を高められるように、また内外に広く発信できるように、活動を支援していく必要がある。

○市民活動の推進について、ボランティアの会への新規入会もあり、参加者数は令和元年度若干増加したが、市外からの向日市を訪れる団体の規模、回数は年々拡大しており、今後においても、市民ボランティアの知識や行動力が不可欠であり、そのための支援に努める必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○無形民俗文化財の後継者育成について、伝統文化の継承、後継者が不足している。その状況を打開するため、担い手の確保や後継者育成に向けた情報発信を工夫していることは、大変評価できる。

○文化・歴史を若い世代にもPRするためには、SNSを有効活用し、いつでも気軽に楽しめる効率的、効果的な方法を模索する必要がある。

○貴重な文化資源である昭和初期のピアノを市民の手で修復し保存、継承できたことは大変評価できる。定期的に事業を開催し、幅広い世代に参加や協力を得ながら、他の文化資源の発掘にも取り組み、事業の拡大を図ってほしい。

○参加者が同じ場所に集まれなかった場合でも、遠隔参加や講演会のDVD等の貸し出しなどで事業に参加できる方法を検討していく必要がある。